

奈良・人と自然の会

2002 年度第三回定例幹事会報告

1. 日 時：2002 年 8 月 8 日（月）18：00～21：00 場 所：奈良県文化会館会議室
2. 出席者：川井・有本・豊島・大寺・野田・小山・樋口（欠席者：谷口・弓場・寺田・勝田）
3. 司 会：野田、 書 記：小山
4. 議 事 録
 - 1) 現在会員数 60 名。
 - 2) この度、川井会長のご努力により下記の会員以外の方々からご寄付を頂きました。
野瀬克久様、小澤明彦様、山下慎太郎様、佐藤崇徳様、天野誠一様、伊東 修様、生田 哲様
原岡雅巳様、山中陸正様、右衛門佐義昭様、高柳 清様、森 俊文様
会員から川井会長、樋口善雄様 又、阿部和生様から切手を頂きました。
ご寄付頂いた累計金額は 47,240 円になりました。有難く厚く御礼申し上げます。
 - 3) 川井会長が今回、シニアの地域部会長に就任されました。これからのご活躍を期待します。なお地域部会に属するグループは、「武庫ネイチャークラブ」（宝塚市）、「バラとカシの会」（茨木市）
「奈良・人と自然の会」（奈良県）、「千里ネイチャークラブ」（吹田、豊中市）、「ラスト自然クラブ」（伊丹市）、「ネイチャー高槻」（高槻市）「玉手山ネイチャークラブ」（柏原市）の 7 つのクラブで、種々の活動をしています。「奈良・人と自然の会」も矢田丘陵の湿地回復ボランティア作業、東海自然歩道を歩く会、奈良フォーラムとの連携の三つの活動を進めたいと考えています。各地域のクラブが頑張っていますので、我々も地域部会長出身グループとして負けずに頑張しましょう。
 - 4) 8 月度月例会、神野山自然公園野外活動の報告。
 - 5) 講師・アドバイザー研修会の内部講師としての実施報告
 - 6) 東海自然歩道を歩く会、月例会の年内予定の検討
 - 7) 当会のエンブレム、ロゴ・マークの公募について
 - 8) 次回幹事会の開催、日時：9 月 6 日〔金〕18：00～21：00 奈良県社会福祉総合センター

会計からのお願い

2002 年度会費未納の方は郵便局窓口でお払い込み下さい。

口座番号 00910-5-48909 奈良・人と自然の会 宜しくお願いします。

奈良・人と自然の会のエンブレム・ロゴマークを公募

奈良・人と自然の会 に相応しいロゴマークを作成することになり、広く会員の皆さんから募集をします。親しみやすく可愛らしいものをお考え下さい。

提出先は事務局

谷口 暁

県民フォーラム情報

先月号でご紹介しました、奈良県環境県民フォーラム、グリーン購入ネットワーク主催による、平成 14 年度地球温暖化防止フェア及び水フォーラムの行事が 8 月 9 日に、なら 100 年会館でありました。この中「環境県民フォーラム自然環境分科会」の「夏休み親子工作教室」ブースでは、谷口さん、樋口さん、川勝さん、フォーラムの方々が、竹とんぼを作ったり、輪切りの木を使ったブローチを作ったり、ドングリや松笠等を使った工作等を子供たちに指導されており、男の子も女の子も皆楽しそうでした。

新入会員ご紹介

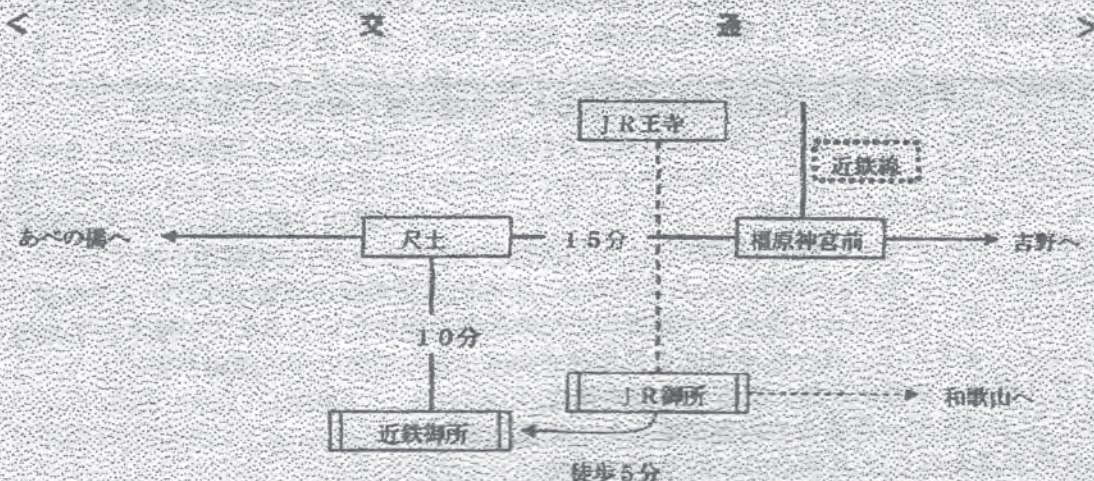
宮沢 喜代子

小田 久美子

葛城古道と彼岸花をたずねて

今回は奈良盆地の南端、金剛山と葛城山山麓の里道を散策します。
太古の道から大和三山を眺めながら、のんびり自然観察をしましょう。
びっくりするような巨木ともご対面できます。

1. 日時 : 9月18日(水曜日) 10:00集合 解散は16:00ごろの予定
2. 集合場所 : 近鉄 御所駅前
3. コース : 御所からバス『440円』——15分——風の森より……ポチポチ歩きます
古道、歴史館、神社、お寺!! 10KM程度 ……近鉄 御所へ
*地道と舗装道の緩やかなのぼり下りのコースです。
4. 天候 : 台風、大雨注意報発令以外は決行します。雨の道もいいです。トイレもあります。



* 権原神宮前-尺土間は、急行では10分。JR王寺-御所間は30分位かかります。
いずれも本数が少ない田舎の線ですので、早めに!!
* JRでこられる方は、近鉄御所駅前まで来てください。

連絡先: 甲斐野幸一

- 10月度例会「大台ヶ原の紅葉」10月9日(水) AM 10:00 近鉄大和上市駅前に集合
11月度例会「明日香川源流を訪ねる」11月10日(日) AM 10:00 近鉄飛鳥駅前に集合
12月度例会「奈良公園のムササビ観察」12月7日(土) AM 17:00 近鉄奈良駅前行基像前に集合

シニア自然大学『講師・アドバイザー研修会』を迎えて 川井 秀夫

今回研修会の方から「奈良・人と自然の会」に対し、内部講師として奈良公園をフィールドとして自然観察会の依頼があり、快くお引き受け致しました。「奈良の自然と文化を探る」をテーマに、樋口善雄氏、寺田正博氏、小山直方氏の協力を得て、自然と文化の二つの切り口からプログラムを立案し、レジュメ資料も充分に暑気真っ只中の8月3日、奈良公園に14名の方々をお迎えいたしました。

本来であれば外部講師として谷幸三先生が登場されるところですが、先生とはまた一味違った構成で、文化の面では、奈良奉行の高札場を皮切りに興福寺・東大寺・法華堂の歴史、東大寺の鐘楼、森鴎外の旧居跡と、世界に誇る文化遺産を紹介、付録資料として鳥居の見方、仏像の見方を図解資料で説明、喜んで頂きました。自然観察では、花の少ない時季だけに、巨樹・名木の観察を軸に、巨樹の測定方法の実技指導、鹿の生態、猿沢の池の亀の生態変化、ナギ、イチイガシ、イズセンリョウ、イヌガシ等の特性など、非常に興味をもって観察して頂きました。春日大社裏山のイチイガシの大樹の前で記念撮影、飛火野での野外昼食、緑陰の茶店で全員かき氷で一服と、コミュニケーションの面でも、知らない同

志がうち解ける機会があり有意義な一日であったと思います。当会として、初めて非会員のグループの方をお迎えし、奈良公園を再認識していただいた満足感もありますが、準備段階の下見観察で初めて発見する事象も多く、迎える我々としても更なる研鑽の必要を感じました。県外からは奈良に対する熱い視線を感じます、今後外部からの当会に対する要請の機会が増えると思います。会員の方々の諸行事への積極的な参加により、会の実力も倍加するものと考えますので、ご協力をお願い申し上げます。

8 月度例会の神野山自然公園への観察会に参加して

大寺 道代

真夏の太陽が照りつける午前9時、いつもの近鉄奈良駅行基前に集合、参加者16名、定期バスで1時間余り、目的地に向かいました。「神野山、鍋倉溪」20年余り奈良に住みながらはじめて耳にした場所です。大和高原、山添村、田園地帯のなか緩やかな登りを歩き始め、次第に山道へと、両側の夏草と夏木立のみどりがさわやかで暑さを忘れ、草花や木々を観察し、オハグロトンボの群や、赤とんぼの美しさに見とれながら登り続け、夏草の生い茂る藪の細い道をかき分けて進んでゆくとポッカリ山上の空間に出ました。この細い道は1週間前に2度目の下見で寺田リーダーが今日のために藪を刈り取り切り開いてくださったと聞きました。ただただ感謝。山上は360度の展望が開けた618.8メートル、吹き抜ける風が涼しく、びっしょりとかいた汗も昼食を取る間にすっかり乾いてしまいました。眼下にぼんやりと広がる大和盆地を眺めたあとは神野寺に参拝、山寺の古寺です。鍋倉溪への下りはこれまでとはガラッと雰囲気異なる急な道、真っ黒な深成岩がゴロゴロと谷を埋め、水の流れは全く見えませんが、耳を澄ますと地面の下からかすかな水音が湧いてきます。咲き残ったオカトラノオの白い花、谷の岩間には一輪のユリの花、黄色のオトギリソウも可憐です。道を戻り始めたところでアサギマダラの美しい姿に出会いました。この日箕面から参加されたアサギ会の方々の前をかすめて谷のほうへ消えました。その昔この山に宿ったと言う古代の神々からの贈り物だったのでしょうか。不思議な出会いでした。太陽信仰、七夕信仰のこの山に神秘を感じました。芭蕉の句に置き換えて、「夏草や古代の神の宴の後」と呟いてみました。大らかな奈良の古代の神秘的な静かな空間を感じた山でした。そして帰りのバスを待つ間、古びた村の酒屋さんで買った冷たい缶ビールは本当に美味でした。

日本一高い温泉に入ったよ！！

豊島すみ子

うだるような暑さの中、白馬3山へ登った。深夜に奈良を出発して白馬山荘で1泊、白馬3山を縦走して深夜に帰るというハードな日程だった。午前3時に起床して山荘を4時に出発、杓子岳から白馬鍾ヶ岳、鍾温泉のルートをたどった。真っ白なガスにさえぎられて視界はほとんどなく、おまけに石ころがごろごろしていて全く自分のペースで歩けない状況が続いた。

鍾温泉に到着の頃には足がガタガタ、それでも温泉に入りたいという気持ちだけで歩いてきた。念願の温泉に入るとほんの一瞬だったがガスが晴れ、雪渓と周囲の山並みが目に入った。標高2100メートル、それまでの足の疲れがうそのようにほぐれていく。時間があればのんびりと1泊してみたかったが……。キャンプ地の中を温泉のお湯が川になって流れ、雪渓に落ちていく。温泉に未練を残しながらお花畑の中を通り過ぎる。チングルマやコマクサ、シナノキンバイなど初夏から初秋にかけての花々が咲きみだれている。やがてガスにさえぎられ寒さに震えながら歩いてきたことがうそのようにだんだんと暑くなっていく。確実に下界に近づいているのが分る。

なぜ山に登るの？こんなに疲れるのに。でも昨日見た夕日は本当にすばらしかったなあなんて思いながら、白馬の大雪渓とお花畑にあこがれた山行きはあつという間に終わってしまった。年々体力が落ちているのを実感する。でも来年も絶対にアルプスに登るぞ！

や も り

高桑 次郎

我が家には親子のやもりが同居している。親子というのは大と小がいるのでこちらが勝手に決めているだけで、本当に血がつながっているのかどうかは本人たちに聞いてみないと判らない。

大は約15cm程でよく肥っていてその名を「曙」、小は9cm程で不器用で愛嬌のある走り方から「チー太」と名づけている。あのアフリカの草原を時速100キロで疾走するチーターをもじったのである。2匹はうまく棲み分けているようで、曙は大体トイレ周辺の壁と天井を縄張りとしチー太はなぜか仏壇の周辺を好む。家内は「トイレは清潔にしているから虫など見かけたことも無いのに曙があんなに肥っているのはやはり居るのかしら」と大いに不満顔である。先日のお盆に家内が仏壇に線香を上げようとすると、キャッと声をあげた。チー太が手の甲へ落ちてきて驚いたらしい。ヤモリは手足に吸盤があるのでベタッとひっつく感じがする。しかし、一番驚いたのは挨拶のつもりだったチー太だろう。次は私が大声に驚いた。以後、家内は曙とチー太に冷淡になってしまった。どうも単純で困ったものだ。孫達が遊びに来ると玄関や窓を開けたままで出入りするので、家中に蚊が侵入して机の下の太い足は格好の

標的にされる。ところが翌日には殆ど蚊の姿を見なくなるので不思議に思っていたが、どうやら我々が寝ている間に曙とチー太が仕事をしているのではないかと確信している。

我が家のネズミの額程の狭い庭では「消毒」と称する殺虫剤散布をやらない。てんとう虫やカネタタキや働き者の蟻まで殺してしまうし毛虫がかなり葉を食べても木が枯れたことはない。人間が熱帯雨林を伐採するに比べれば可愛いものである。

同様に屋内でも殺虫剤は使用禁止である。貴重な蠅取り蜘蛛に迷惑を掛けるからだ。蚊退治はもっぱら曙とチー太と蠅取り蜘蛛軍団にまかせているが、さすが専門家で我々が八手のような手をパチンといわすよりはるかに効率よく仕事をしている。

つまり我が家では、やもりも蜘蛛も毛虫もミミズも私も家内もみんな対等の同居人である。こう言うと上等の土壌をせっせと作ってくれるミミズから「さして仕事もしないあんた達と同格かい？」と文句が出そうで、気を使ってこの文を書いている。

「自然と私」の最近

森本 礼一

森林について現在少し勉強中ではありますが、この自然・森林の生態系について皆さん、ご存知の連鎖関係・生産者（植物）—消費者（動物）—分解者（微生物）のシステムがベースに展開されています。

これをヒトの立場で見ると、生産者は世帯主—消費者は扶養家族—分解者は配偶者となります。（異論あり...かな？）

しかし、地球の中で見るとヒトは明らかに消費者・扶養家族であり他の生物と一緒に生きなければなりません。これぞ生物多様性の必要性であります。従って、ヒトが要因の環境問題は、地域限定から地球規模へ、加害者・被害者の関係ではなく文明生活全てが汚染源、そして世代を超えて影響があるので回復に相当な時間がかかります...とある大学の公開講座でのお話。併せて、先般6月末、カナディアンロッキー、ナイアガラ瀑布、ルーズ湖、ペイトー湖、コロンビア大氷原のアサバスカ氷河（氷河が200メートル位後退している）等自然のすばらしさと共に環境変化の恐ろしさを実感して来ました。

一方、今年4月より聴講生として考古学（水野先生）を若い学生に混じって学んで（楽しんで）おりますが、考古学でいきなり地球の生い立ちから今までの世界の大陸、海洋や気象等の環境の変動の話から始まりました。寒冷期と温暖期の周期が12,500年で旧石器時代は寒冷期で現在は温暖期で海水の高さにして20メートルの差があり、アジア大陸と日本とのつながり具合、瀬戸内海が川であった、寒冷期は地球は丸くない等等。発掘した物から年代、場所、用途、自然環境、人々の生活スタイル等を推測するためには当然のことかも知れませんが考古学で自然環境問題を学ぶとは、言われてみれば当然のことなのですが古代の人々が変わり行く環境のなかで、リサイクルをベースにした自然とのかかわりの中でどのような生活を送っていたのか、ロマンではなく生きるために自然環境と必死に取り組んでいたのではとも思い、現在注目されている里山保全の取り組みにも思いをはせ考えさせられます。

なにせ、先般8月始め、恒例により実家（空家）に帰って来ましたが今でも実家の前の道は県道ですが、行きつく先は山の上で行き止まりです。典型的な過疎地で現在も進行中です。このような環境で育ったため、山林、水田、畑等に関連した生活するための作業、及び動物、鳥、虫、魚等と遊ぶため、食べるための付き合いを幼少の頃より経験しており何の意識もなしに自然を相手に遊び、生活していたと思います。いまだどこに行っても、居ても、楽しく？[余り退屈することなく] 過ごせるのも、このような経験により自然から楽しませてもらっているお陰であり、あわせてヒト、消費者としての役割を果たさねばとあらためて実感している今日この頃です。

編集後記

先日、朝日新聞の声欄にボランティアについて「同情や自己満足を求める次元の低いもの」から、「与える側に身を置いていると錯覚している高慢さ」があると指摘している。もう一つの意見は「ボランティア」を辞書でひくと「自発的な」「進んで引き受ける」とあるが、ボランティアが「義務化」や「受け身」になるのではなく「素直に人の役に立ちたいと行動する」のが真のボランティアではないだろうか、と結んでいる。

ボランティア活動はまず参加が大切ではないでしょうか。行事に参加するのは勿論、機関紙に投稿するのも立派な参加だと思います。新たな発見、観察、感動、その他、例会や観察会に参加して感じたこと、こんなことがあった、など一口メモ的なもの何でも結構です。E-mail、FAX、ハガキなどで、次号は9月20日までに下記までお送りください

連絡先 有本 倍美；

奈良・人と自然の会 事務局

川井秀夫